



「北方教育の父 成田忠久先生教鞭の地」碑

【交通】三種町の国道7号線沿い＝旧八竜町役場前



【秋田県版】

No. 357

2021年3月15日

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

発行人：田中幹夫

〒113-0034 東京都
文京区湯島2-4-4

秋田県本部

〒014-1413
秋田県大仙市角間川町
字東中上町27

最上健造 方

TEL&FAX
0187-65-2115

同盟運動の目的

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

- 1、国は、治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
- 2、国は、治安維持法犠牲者に謝罪し、賠償を行うこと
- 3、国は、治安維持法による犠牲者の実態を調査し、その内容を公表すること

太平洋戦争の始まる1年前、6名の教師が治安維持法違反で検挙された。さらに大戦の10日前3人の教師が検挙された。成田忠久が起こした「北方教育」運動が「生活綴り方」運動として東北一円に広がったが、その運動に参加した教師たちが弾圧された。

成田忠久は、明治30年9月男鹿市に生まれた。5年間の軍隊生活ののち、八竜町の小学校の代用教員を大正末期まで5年近くとめた。成田の授業は秋田県における自由教育の魁だった。

昭和初期、農村は冷害や政治の貧困で疲弊し、子供も教師も苦しんでいた。そうしたなか教育勅語、軍国教育に疑問をもち、真実の教育を求め

昭和初期、農村は冷害や政治の貧困で疲弊し、子供も教師も苦しんでいた。そうしたなか教育勅語、軍国教育に疑問をもち、真実の教育を求め

昭和初期、農村は冷害や政治の貧困で疲弊し、子供も教師も苦しんでいた。そうしたなか教育勅語、軍国教育に疑問をもち、真実の教育を求め

「再録」シリーズ① 県版「不屈」No.2(1991年6月)より

「治安維持法」の嵐のもとでたかかった 諸先輩の紹介にあたって(下)

同盟県本部副会長 加藤謙二郎(故人)

秋田県における共産党組織の確立と治安維持法の弾圧

(一) 県党組織の確立と三・一五の弾圧

一九二二年に日本共産党が創立されますが、二三年に治安警察法による最初の弾圧をうけます。党中央は党再建をすすめるとともに、「普通選挙法」の実施にそなえて、共産党員の合法舞台としての単一無産政党・「労働農民党」を支持します。秋田県の棚橋貞雄らの共産主義者も、すでにのべた労働、農民運動の展開のなかで、そのためにたたか

いました。こうして二八年二月に、秋田県の共産党組織は棚橋を責任者にして、佐藤謙蔵、平山忠尚によって確立されました(三人はいずれも故人)。

棚橋、佐藤は、わが国の階級的労働組合の最初の全国組織である日本労働組合評議会に加盟していた全秋田合同労働の、平山は日本鉄道従業員組合秋田支部の、いずれも指



導者でした。二五年四月に治安維持法が公布され、二七年の九月に第一回「普通選挙」の県会議員選挙が実施されましたが、この時すでに黨員だった棚橋が秋田市で、労働農民党候補としてたかかって六三五票(十一パーセント)の得票を得ました。生まれたばかりの県党組織は、翌年に実施された第一回衆議院議員選挙

で一、二区の労働農民候補を推して戦いました。この選挙直後の二八年三月十五日に、天皇制政府は県党組織にたいする最初の弾圧を加えました。この時秋田市の労働農民党事務所など八カ所が捜査をうけ、棚橋、佐藤、平山が逮捕、投獄されました。

今日ここにおいての中央本部副会長石黒周一さんと、高桑あつしさんが秋田の労働農民事務所に、泊まりこんでいたので、三・一五の弾圧、捜査と対決した歴史の証人です。天皇制政府は三・一五の年の四月に、労働農民党を解散させました。この時三浦雷太郎らの共産主義者が、これを受けつぐ新党準備会を支持しましたが、三浦と同じように「秋田労働社」の運動にかかわっていた近江谷友治らは、社会民主主義の潮流だった無産大衆党へ参加を表明しました。

(二) 再建と四・一六、県党組織の再建と

四・一六、秋田共産党事件の弾圧

三・一五のあと県党組織の再建は、党中央オルグの杉本文雄の指導で、日農オルグの安原謙市、今村英雄、後に全農全国会議の全国委員になった三浦雷太郎、新党準備会オルグの白水実などによってすすめられました。

「二七年テーゼ」にもとづいた大衆闘争と大衆組織のなかですめられた、非公然的苦難な党建設の活動によって、秋田製油所、国鉄土崎工場、秋木能代工場、農村では花輪などに党組織を確立することに成功しました。

天皇制政府は、二九年四月一六日この党建設のたたかいにたいして、全国いつせいの弾圧を加えました。県内では十四カ所が捜査され、逮捕者のうちいまのべた安原、今村、

三浦、三・一五弾圧でのべた石黒さん、関賢蔵、大槻喜一、田中儀助、敦賀谷勝治の九人が有罪とされました。

この大会の準備委員鈴木清さんは、旧制山形高校を放校され、東京で工場オルグとして活動していましたが、四・一六で逮捕、投獄され、獄中でのたたかいを代表作『監房細胞』に書いておられます。

四・一六弾圧で秋田以北にあった党組織は潰滅的打撃を受けた。その後の党建設のたたかいは、日本帝国主義が三一年に中国東北部への侵略戦争を開始し、十五年間にわたる戦争に突入した専制支配に抗して、全農全国会議を軸にした農民運動と農民組織のなかで不屈におこなわれました。この英雄的なたたか

い先頭にさきにのべた鶴沼(一九一〇—三八年)が立っていました。彼は全農全会東北地方委員会の書記でしたが、三一年秋に保釈出獄していた棚橋の指示をうけ、党中央との連絡のもとで県党再建の責任者として、三二年十一月十日の「秋田共産党事件」の弾圧で逮捕、投獄されるまでに果敢に戦い抜きました。「秋田共産党事件」の弾圧は、「三二年テーゼ」に基づく活動の態勢確立のために熱海で

(三) 「多数派分派事件」、「人民戦線事件」と相次いだ弾圧

「秋田共産党事件」で多数の弾圧犠牲者を出し、県党組織は指導部のほとんどを失い、党中央との連絡も切断されましたが、天皇制政府は弾圧し続けました。「多数派分派」から機関紙がとどいてるだろうという口実にした三三年十二月の「多数派分派

ひらかれた、全国代表者会議の直後に全国的な規模でおこなわれたものでした(逮捕者千五百人)。秋田県では百二人が逮捕、二三人が送検、一六人が起訴され、五年の実刑をうけた鶴沼が獄死させられました。県内におけるこの実態は、天皇制の残虐性とともに、戦前にいにおける県党組織と諸先輩のたたかいの、不屈性、大衆性を物語っていると思います。

事件」の弾圧では、三浦、今村らの黨員とともに今日の大衆準備委員の庫山寛一さんらの党支持者をふくむ二五人が逮捕、投獄されました。同じく大会準備委員の加賀屋喜一郎さんは、この頃東京で産業労働調査所、労働組合評議会のあとをうけ事実上非

行ってみよう！ 戦争・平和と関いの館へ

雪が消えたら近隣の戦争・平和、闘いと抵抗の館に行ってみませんか。

近くにはどこも魅力的な観光地と温泉があります。会員以外の方も誘います。

て、学び楽しめる小さな旅を計画しましょう。(ガイド紹介できます)

【青森県】

秋田雨雀記念館

秋田雨雀(1883~1962)は黒石生まれでプロレタリア演劇運動に参加し、1940年検挙。1949年日本共産党入党。日本児童文学者協会会長。

住 所 黒石市中町5(津軽こみせ2階)

電 話 0172-59-2080

開 館 9:00~16:00

定休日 年末年始

【岩手県】

北上平和記念展示室

地元教師に寄せられた教え子からの軍事郵便7000通、ほか教科書、銃、軍服など400点を展示。近くに平和観音堂、陸軍飛行場跡あり。

住 所 北上市和賀町藤根114-147-3

電 話 0197-73-5876

開 館 4~12月 10:00~16:00

資料代 100円

休 館 月、火(月火が祝日の場合は翌日)

【岩手県】

田野畑民俗資料館

日本最大級の三閉伊一揆に関する資料を展示。敷地内に一揆指導者の「銅像」、近くに指導者の生家あり。秋田県歴教協会会長・茶谷十六さんの著書など展示。

住 所 下閉伊郡田野畑村田野畑128-9

電 話 0194-33-2216

開 館 9:00~16:00

入館料 310円

休 館 月(月祝日の場合翌日)

【山形県】

米沢戦争資料館(農村文化研究所付属)

日本一小さい戦争資料館。一部屋の展示だが、特高警察資料や戦時中の貴重な資料が展示。農村文化研究所(農業と生活資料展示)の見学もぜひ。

住 所 米沢市六郷町藤泉71-32

電 話 0238-37-5362(事前確認必要)

開 館 10:00~16:00

資料代 若干

休 館 月、火、祝日(1月~3月冬期休館)

【秋田県】

松田解子文学記念室(大盛館内)

松田解子は秋田県が生んだプロレタリア作家。幾たびの弾圧にめげず戦後も長く活躍。大盛館は「荒川鉦山・宮田又鉦山」の資料館でもある。松田解子の作品は荒川鉦山と切っても切り離されない。敷地内に「おりん口伝文学碑」、近くに「荒川鉦山跡」「松田解子分骨の墓」がある。まだ行ったことない方は是非。

住 所 大仙市協和荒川字川前9 国道46号線

電 話 018-881-8035

開 館 9:00~16:30

入館料 無料

休 館 月(月祝日の場合翌日) 年末年始

合法にされていた全協で活動していましたが、党中央の部員だった三五年に、逮捕、投獄されました。

日独防共協定が調印された年である三六年の「人民戦線事件」の弾圧では、党員をはじめ、近江谷友治や南秋の日農系の人びと、今日の大会にでおられる鷹ノ巣の畠山忠光さんから文化分野の人びとと合せて三七人の秋田県関係者が逮捕、投獄されています。

こうした相つぐ弾圧が、長谷川清、今野直治(ともに故人)らによる日本赤色救援会、工藤清八(故人)らによる「新興教育」の読者中心の全日本教育労働組合秋田支部、斎藤孝輔(故人)らによる日本共産青年同盟にも、容赦なく加えられました。横手に帰った鈴木清さんが中心だった日本プロレタリア作家同盟で、この大会に出ておられる横手の高橋軍治さんが活動して

国会請願は5月中旬の予定 県・各支部同盟創立30周年 「コロナ禍」沈滞を打破し足を踏みだそう

今年の国会請願は5月中旬を予定しています。菅政権は場当たり的「コロナ禍」対策、「森喜朗女性蔑視発言」、「長男・総務相幹部接待問題」などどれをとっても政権担当資格が問われます。「オリンピック」開催も大問題です。国会がどうなるか不透明ですが、中央本部は5月中旬に国会御請願行動を予定しています。

4月末まで、各支部の自主目標への努力が求められています。また今年は全国大会の年です。さらに県同盟、各支部同盟は創立30周年を迎えます。今年は県同盟にとって、節目の年です。組織建設と運動の前進にとって、決意と段取り、行動の具体化が重要です。学習会などを計画しつつ、新会員拡大、署名目標達成へダッシュしようではありませんか！

ります。

これまで度たびのべました今村英雄は一九二八年から主に県南で活動し、相次ぐ逮捕、投獄のあと、四一年十二月の太平洋戦争開始で「予防拘禁」になって、東京予防拘禁所から解放されたのは、敗戦のとし四五年の十月十日でした。

今村さんは八五年八月に郷里青森で七九才で死去されました。

たが、著書『嵐の中の烈士伝』をのこしています。八〇年一月に書いたその「あとがき」こう言っております。

「最後に、秋田の人々にお願ひしたい。今はなき同志先輩諸君の記念碑、できるなら共同墓地を建立してくださること。筆者には墓地をつくる力はないので、そういうものができたら、他人様に迷惑を

かけぬよう、その片隅においてもらいたいのである。」

これで今日の大会にておられます諸先輩の紹介を終わります。(一九九一年二月十日の治安維持法同盟秋田県本部結成大会でおこなった報告の要旨です。)

イージズ・アショアの活動をふり返る⑥

勝平の会・元共同代表 佐々木勇進



「イージスを考える勝平の会」の報告は、今回で終わらせていただきます。昨年10月からのお付き合いありがとうございました。

生活をかける決意で、心を一つに

2017年11月、政府の「イス・アシヨア配備計画（新屋と山口に配備）」が明らかに
なった時から、私たちは、その
導入理由や機能が不透明で
あり、何よりも地元住民を無
視して、ミサイル基地を住宅
街に隣接してつくることに驚
き、「配備反対」を決意しま
した。随時、講演会や学習会
に参加し、軍事評論家や学者
の意見を聞き学習した。

い」などいろいろな意見や戸
惑いの声が広がっていたが、
私たち「勝平の会」は、イ
ス配備計画撤回のために、
まず、従前から毎週地元豊
町で行っていたスタンディ
ングを県庁前でも行うことにし
「イス・アシヨア配備反
対」を広く市民に訴えること
にした。

政府が、イス・アシヨア配備計画

地元では、この計画に「な
んで新屋なのか?」「反対」
「一番最初に狙われる」「政
府の決めたことだ、仕方がな
い」など、反対を訴えてきまし
た。

最初は、マイクを握っても声が出なかった人も、堂々と意見を述べるようになりました。他にも立看板や絵入りのプラカードをつくる人、会のニュースをつくる人、「イージズはいらない」の歌をつくり歌って反対を訴える人、宣伝カーの運行、音響装置を調整する人、という具合でした。そして、原水禁世界大会など全国大会レベルの集会から4〜5人の学習会や井戸端会議のようなつどいなどへも足を運び、イージズ反対の協力・協同を訴え続けました。

これらは、会員の一人ひとり、経験のあるなしにかかわらず、それぞれが出来ることとはなんでもやる決意で取り組み、互いに尊重しあいながら行動を積み上げることで実現したことでした。

こうした勝平の会の活動が、県民にイージズ反対の声が大きい

きく広がる一助になったものと思っている。

なお、地元の町内会連合組織の勝平振興会が18年7月に「配備計画反対」を決議した。

「勝平の会の人、皆がんばるね」とよく言われました。それは、会の活動が皆の日常生活そのものになっていったからだろう、と思う。

イージズ配備撤回のをたたかった2年半、防衛省に翻弄されながらも、配備撤回を勝ち取った。が、この背後に安保条約と日米共同のミサイル防衛構想があることも学んだ。

配備計画撤回を掲げて、寝ても覚めても走りまわった事実と経験を記録に残しておくべきと考え、自費出版することにしました。

4月ごろ出版の予定です。みなさんのご協力をお願いし、報告とします。

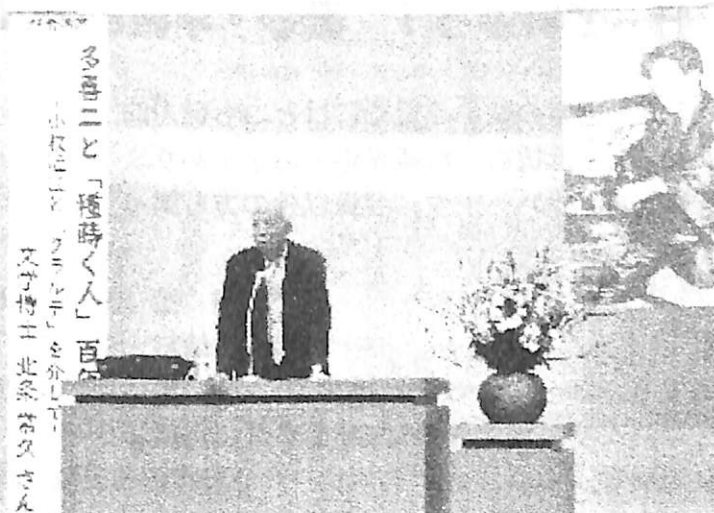
きく広がる一助になったもの
 と思っている。

なお、地元の町内会連合組織の勝平振興会が18年7月に「配備計画反対」を決議した。

「勝平の会の人は、皆がんばるね」とよく言われました。それは、会の活動が皆の日常生活そのものになっていたからだろう、と思う。

県多喜二祭（2月20日）、大館・多喜二
記念の集い（21日）開かる

第 58 回 秋田県多喜二祭



今回の多喜二
祭賞は、団体の
部は『秋田県の
戦争遺跡―次世
代を担うあなた
へ』を発行した
「秋田県戦争遺
跡研究会（代表・
外池智秋田大学
教授）」、個人
の部では、長ら
く「大館・多喜
二記念の集い」
実行委員長を務
めた故・大山兼
司さんに贈られ
た。

県多喜二祭には120人、大館の集いには70人が参加した。いずれもコロナ感染防止対策がしつかりと行われた

遺跡研究会」には国賠同盟会員も数名おり、執筆を担当している。故・大山さんも国賠同盟会員であった。秋田の授

作品「同志田口の感傷」を朗読する塩田睦子さん



与式には、一昨年多喜二祭賞を受けた故・渡辺豊彦さん（国賠同盟会員）の奥さんが「研究会」を代表してトロフィを受けた。

記念講演では、北条常久氏



受賞の謝辞をのべる 外池代表

求めたことなど、
興味尽きない話を
紹介した。

を、『種まく人』の小牧近江に手紙を添えて送り、感想を



国賠署名を訴える秋田支部の会員

（右上写真）が、多喜二が主

支部会長の抱負

「市民と野党の共闘」で
菅政権に終止符を

大館鹿角支部

会長 浅石 重美



に感染拡大となりました。

昨年は1月に初めてコロナ感染者が出てから、全国

に感染拡大を避けるため、私たちの活動にも、大きな影響を及ぼしました。これまでの政府のコロナ対策では後手後手の政策で、菅政権に緊張感が欠けているといわざるを得ません。飲食店の時短要請ということの

みではなく、PCR検査をもっと増やし、感染者を見つけて接触者を断つことが大事ではないでしょうか。

3月18日告示・4月4日投票の県知事選挙に、元新日本婦人の会事務局長の相場未来子さんが、無所属。共産党推薦で立候補します。

相場さんは、治安維持法国賠同盟の若手会員です。藤本ゆりさん、杉山あきらさん、相場未来子



さん3人は、国賠同盟のみならず、多くの方々の期待にこたえての決意です。同盟としても最大の応援をしましょう。

県知事選挙・

相場未来子さん立候補



編集後記

今回は、357号をお届けします▼「ちよつと高田さんの体調が快復するまでの間、ピンチヒッターでお願いします」と最上会長に言われ、「ああ、いいですよ」といったまでは良かったのですが、高田さんが快復したのにまだやっています▼原稿などは、会長や会員の皆さんのおかげで何となるのですが、割り付けは思うようにいきません。また、折角の『編集長』ソフトも十分に使いこなすことができませぬ▼高田さん早く「私がやるからもういいよ」と言ってくれませんか。そろそろ泣き言が出てきました▼そんなわけで、これまでにない、つたない機関誌となっていますが、長い目で見てください。

(横手市 相川修二)